

特徴の似ているミナミハンドウイルカたち～口元編～

ミナミハンドウイルカの個体識別を行う際には体の傷跡やヒレの特徴に注目しますが、口元が識別ポイントとなる個体もいます。今回は、そのなかでも似た特徴をもったイルカたちを集めてみました。識別する際は、早とちりに要注意！？

#5・♂
コブン

2001年から確認されている個体。父島列島だけではなく、賀島列島での観察記録も数回ある。右側の口元に特徴あり。背ビレはギザギザしている。

#118・♂
フック

2005年が初確認。観察記録は父島列島のみ。左右の口元に切れ込みがあり、特に左側から見た横顔が#173とよく似ている。背ビレに大きな欠けがあるのがポイント。

#173・♀
ミカワ

提供：鈴木絵美子

2006年から確認されており、出産記録は1回。これまで賀島列島でしか観察されていない。#118と口元がそっくりなため、識別の際は背ビレや胸ビレも確認しよう。

#273・♂
モグオ

2011年から確認されている個体。父島列島での観察記録のみ。左右の口元に切れ込みがある。左側にはミニエボシが付着しているのが識別ポイント。背びれは比較的きれい。

この夏生まれた赤ちゃんイルカのおほなし

8月25日、賀島列島にて#296（ノハジマ）が胎児線のある赤ちゃんを連れているのを確認しました。2014年に会って以降、初の出産記録になります。この親子、5日後の8月30日には父島列島で確認され、赤ちゃんイルカも元気に泳いでいたわけなのですが……。なんと、9月26日の調査で出会った際には、赤ちゃんイルカの尾柄部に痛々しい傷ができていたではありませんか。早く良くなってくると良いのですが、今後しばらく経過を観察していきたいと思えます。

#296と赤ちゃんイルカ

cheer up(チアアップ:元気をだして、頑張っ!)の
願いを込めて「チア」とニックネームをつけました。